

JA長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター  
がん相談支援センター 広報誌

# こすもす

2026. 冬号

Vol. 12

2026年3月発行

## Contents

- 泌尿器がん(前立腺がん)の意思決定支援
- インフォメーション



# 泌尿器がん(前立腺がん)の意思決定支援

佐久医療センター 泌尿器科 中山 剛

## 力を合わせ「ワンチーム」をモットーに

力を合わせて難局を乗りきる！ ということは有効で、毛利元就の3本の矢の逸話や、身のまわりでも銀行の合併や連立政権など、たくさんあります。

医療の分野もチーム医療が実践されており、もちろんがん治療も同様です。特に医療者と患者さんだけでなく、ご家族を含めた全員で力を合わせていくことが重要だと思っています。お困りの際には「**がん相談支援センター**」をお気軽に利用していただきたいと思います。

## 医師の多さが強み

泌尿器科は常勤医師4人、非常勤医師2人の計6人で診療を行っています。

全員で意見を出しあい、最善の方針を決定します。その一例として入院時には医師と看護師のチームで、毎朝の回診を行います。治療がスムーズに進むように、軌道修正が必要か否かを話し合います。一人では思いつかなかったことに新たに気づくことがあります。三人（以上）寄れば文殊の知恵なのです。

## 正しい知識を持つことが意思決定に重要

さて、泌尿器科で診療する癌はいくつかありますが、ここからは前立腺癌について取り上げます。

以下は私が経験した、患者さんの発言です。

- ①「前立腺の生検はすごく痛いみたいで受けたくないです」
- ②「前立腺の生検でがんが治るんですね？」
- ③「ホルモン療法をすると髪の毛が抜けてたいへんみたいですね？」 など。

いずれも誤った内容で、例えば①ですが、30年前は麻酔なしで6カ所の生検が一般的で、「がんか、がんではないか」が重要でした。しかも「6カ所なのだから麻酔なしでいいただろう」という考えだったのでしょう。ところが現在は「がんがどこにあるのか」ということも重要視され**MRI超音波融合前立腺生検**という方法で最低でも12カ所の生検を行っているため、腰椎麻酔が全身麻酔が必要です。もちろん痛みは全くありませんので安心して生検を受けたいと思います。

このように患者さんの意志決定を妨げるものとして、誤った先入観や知識などがあります。これらを正し、正確な知識を持つていただくことが意思決定に重要だと考えています。

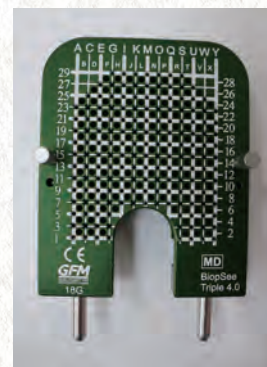
## 診断について…最新技術「MRI超音波融合前立腺生検」について

前立腺生検は癌の有無を診断する検査で、前立腺を超音波で見ながら、針を刺して組織を採取するものです。あらかじめ生検の前にMRI検査を行って、癌を疑う病変がないか確認しておきます。その病変部分がMRIでは見えても生検時の超音波では見えないこともしばしばあり、従来の生検では病変部を採取できていない可能性がありました。

それを克服する技術である「**MRI超音波融合前立腺生検**」を2024年より行っており、東北信では当院だけに採用されています。

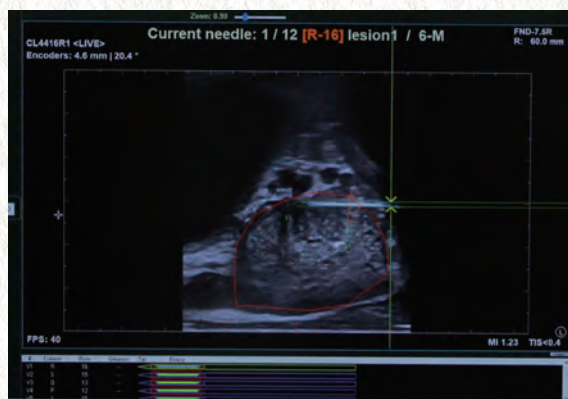
**MRIと超音波の画像を融合させることで、がんを疑う病変部を採取でき、診断率が向上します。**写真①はテンプレートというもので、よく見ると穴があいていますが、病変はどの穴の何センチ奥にあるのかをコンピュータが計算し、その指示通りに針を刺して採取していきます。写真②は実際の超音波の画像で、R-16の穴に病変部が存在するということを示しています。

さらに、がんの検出率を上げるためには、前立腺をまんべんなく10~12か所以上採取することも重要です。テンプレートを用いるとどの部位から採取したかがきちんとわかるというメリットがあります。「がんか、がんではないか」に加え「がんがどこにあるのか」が重要になってきていて、後の治療にもつながっていきます。その代表例が「ロボット支援手術での神経温存術式」と「無治療経過観察」を選択する場合の2つです。



写真① テンプレート

横軸にアルファベット、縦軸に数字が書かれています。病変部分をコンピュータが計算します。



写真② 超音波の病変の位置

赤色で囲っている部分が前立腺で、その内部にオレンジ色の領域があり、ここが病変です。白い横棒が実際の生検で用いる針で、オレンジ色の部分が採取されていることがわかります。

## 「ロボット支援手術」について



写真③ ロボット支援手術：ダビンチ

実際の手術の様子です。ダビンチを用いることで繊細な手術が可能になり、神経温存術式の成績も向上しています。東北信では当院だけ、MRI超音波融合前立腺生検とダビンチの両方が導入されています。

写真③は手術支援ロボットのダビンチで前立腺を全摘除している様子です。

手術では前立腺に伴走する、勃起をつかさどる神経も切除されるため、術後に勃起障害が起こります。勃起機能を温存したい患者さんには「神経温存術式」を選択します。ダビンチを用いることで、機能温存の成績も向上しています。

MRI超音波融合前立腺生検を開始して改めてわかったことですが、MRIで異常を認めない部分にも癌が存在することをしばしば経験します。したがって、6~8か所の少ない生検の情報をもとに「神経温存術式」の選択をすると、実は神経の近くまで癌が存在するのに過小評価され、がんを取り残すという、かえって患者さんにとって不利益な結果になりかねません。したがって、当院ではMRI超音波融合前立腺生検でテンプレートを用いて12か所以上まんべんなく採取し、どこに癌があるのかがきちんと把握した上で、この術式を選択するか決定しています。

## 「無治療経過観察」について

癌の部位が少なく、悪性度が低い、腫瘍マーカー（PSA）の値が低い、などのすべての条件を満たす患者さんでは、即時の治療を行わず、1年後に再生検を行って治療方針を再検討する「無治療経過観察」も可能です。無治療という表現ですが、治療を先延ばしにするという考えです。

さて、この選択は生検での採取数が重要で、6~8か所の採取では、まんべんなく採取したことにはならず、がんの広がりを過小評価していることがあります。

例えば6か所の採取で1か所だけにがんがあったとします。がんの部分は1/6で、一見広がってはいないと判断されます。ところが、それを12か所採取して、追加した6か所全部にがんがあったとしたら、がんの部分は最大で7/12となり、これはがんが広範囲に広がっていることを表わし、「無治療経過観察」の適応からは外れます。採取するサンプル数が多い方が正確な判断に近づくことがおわかりになると思います。

当院ではMRI超音波融合前立腺生検で病変部を含めた12か所以上をまんべんなく生検した上で「無治療経過観察」の適応を決めています。このように生検が後の治療方針を左右するので、とても重要な検査と言えます。

### 治療方針は即決しない

さて、治療方針の決定は即決しないようにしています。内容が多岐にわたる上、患者さんはがんの告知を受けて正確な判断ができない可能性もあります。それをチームの一員としてご家族に協力してもらうことも大切です。帰宅後にご家族でよく話し合っ、最終決定をしています。このように、ご家族を含めたワンチームで最善の治療を考えていきます。今回は前立腺がんを取り上げましたが、泌尿器科では他の癌でも同様な対応をとっています。

## まとめ

- がんの治療はワンチームで行う
- そのためにご家族の協力が必要です
- お気軽に「**がん相談支援センター**」にご相談ください
- 治療の決定には正しい知識が必要です
- 前立腺生検はその後の治療方針を決めるため、**MRI超音波融合前立腺生検**で12か所以上の採取を行っています
- 治療方針は即決しないでよく考えてから



# ～インフォメーション～

2026年3月7日(土)～3月15日(日)  
「AYA Week 2026 誰もが生きやすい明日へ  
～ともに考えよう、AYA世代とがん～」

AYA世代(15～39歳)の“がん”について想う1週間

佐久医療センター「AYAサポートチーム」も応援しています。

## 市民公開講座

テーマ：予防できるがん・自分で出来るがん予防  
知って安心！「HPVワクチン」と「肺がん検診」

日時：2026年3月14日(土) 14:00～15:30

講師：佐久医療センター 産婦人科医師 小口 治  
佐久医療センター 呼吸器内科医師 柳澤 悟

場所：佐久医療センター 1階ホール

2026年度 佐久がん基礎講座

佐久医療センターHPでご確認ください。



AYA世代がん患者応援フラッグ

お問い合わせはこちらまで

【事務局】JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター  
がん診療センター

電話：0267-62-8181 (内線2110)

Eメール：gan-kyo10@sakuhp.or.jp 赤羽・高見澤

## 就労相談会

～治療と仕事の両立に関する様々な困りごと～

社会保険労務士による相談会

ハローワーク長野による就職相談会  
オンラインでの相談も承ります。

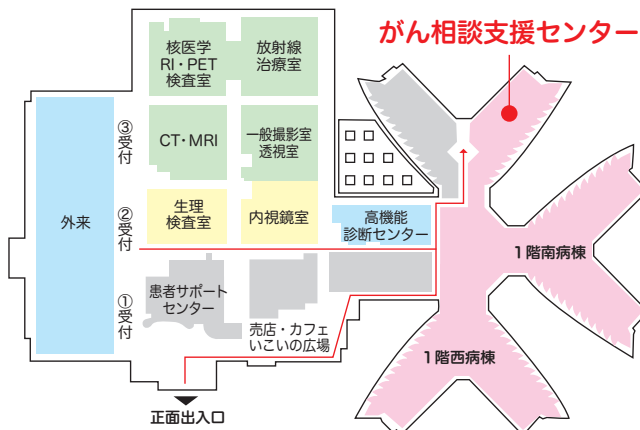
治療と仕事の両立支援相談会

相談無料  
要予約

ご相談・お問い合わせは  
がん相談支援センターまで



佐久医療センター 1階平面図



## がんサロン「もくらん」今後の予定

開催日時：毎月第4木曜日 13:30～15:00  
場所：佐久医療センター 文化交流室  
(参加予約不要)

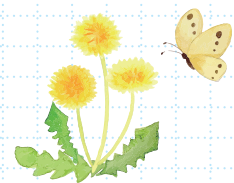
● 3月26日(木) ミニミニ学習会  
「口腔ケアのお話」

お問い合わせは「がん相談支援センター」  
(直通 0267-88-7184)まで連絡をいただくか、  
佐久医療センターのホームページでご確認ください。

ご相談・お問い合わせはがん相談支援センターまで

## 編集後記

意思決定とは単に治療法を選ぶことではなく、  
これからの「生き方」を選ぶことだと感じます。  
特に選択肢の多い前立腺がんにおいて、その  
重圧を一人で背負う必要はありません。専門  
的な情報は医師から、そしてその決断に至る  
までの心の揺らぎは、私たち相談員が受け止  
めます。本誌を読み終えたあと、少しでも心  
が軽くなっていることを願って。次号も皆様  
の「知りたい」に応える情報をお届けします。



JA長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター

がん相談支援センター

☎0267-88-7184